

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2770901573		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	グループホーム円珠荘(1)		
所在地	大阪府高槻市北柳川町2番6号		
自己評価作成日	平成24年10月24日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年11月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>利用者がその人らしく過ごしていただけるよう、家族的な雰囲気づくりをしている。また、医療機関と密接に連絡をとっており医療面で充実している。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所は高槻市の阪急富田駅から真南へ徒歩約15分の比較的閑静な住居地区にある。近くに総合病院、歯科、内科、整形外科等の医療機関や中型スーパーと各種商店、神社、仏閣等があり、住居環境に恵まれている。経営母体自身が整形外科からスタートした医療法人で、当事業所は法人の経営する総合施設の3階に2ユニットを運営している。尚、1階は柔道クラブ、2階はデイサービス、4階は小規模多機能施設である。直ぐ近くにグループの特別養護老人施設もある。従って、当事業所最大の特徴は利用者が最晩年まで、安心して心穏やかに暮らせるよう緊密な医療連携システムとベテラン職員による手厚い支援体制にある。理念にある通り、利用者の心に寄り添い、地域との交流を大切にしながら、家庭的な環境の下で自立した日常生活を楽しめるよう、管理者と職員がきめ細やかなケアに懸命に努めている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく過ごしていただくことを理念に管理者、職員、家族とも密に連携をとり、実践している。	今年2月職員皆と話し合い「利用者の心に寄り添い・地域との交流を大切にし、家族的な環境のもと自立した日常を営めるよう援助する」との独自理念を作成している。職員は一体となって日々その実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催のイベントや運営推進会議などは、地域の方々にご参加いただき、事業所は地域のイベント等に積極的に参加している。	施設主催の屋上テラスでの辯天宗花火観賞会や敬老会、クリスマス会に民生委員、福祉委員、小・中学生を招待し、一方地区主催の盆踊り、公民館での詩吟サークル活動に参加して地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方、家族の方々に施設の事例に基づいて認知症について話合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告、活動状況等報告、地域の方、家族の方々の意見を聞き、サービスの向上、改善に取り組んでいる。	推進会議は地域包括センター代表、民生委員、福祉委員、家族代表が参加しこの1年、2ヶ月毎に開催している。推進会議で家族から提案された手造りの夕食をとの希望に対し週3回ホームの厨房で手造りしてサービスの向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは密に連絡を取っており、報告、連絡、相談しながら、運営している。	介護保険課をはじめ市の各担当者と緊密な連携を取って相談し、適切なアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、ミーティング等で身体拘束について理解を深め、施設全体で身体拘束のないケアを実施している。	1階玄関は施錠せず、3階ホームの居室からベランダへもフリーにしている。エレベーターは危険防止のため押しボタンを制限している。身体拘束禁止について、職員はよく理解し拘束しないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、ミーティング等で高齢者虐待について理解を深め、施設内で虐待の疑義があれば、徹底的に調査するようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要と考えられる利用者がそれらを活用できるよう関係機関への橋渡しをする為に、地域で行っている会議などに参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間をかけ利用者や家族に丁寧に説明し、疑問や不安がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置、家族会議等で利用者、家族の意見を聞き、施設運営に反映させる。	家族の訪問時や家族会等で気軽に意見・希望を出して貰い、それを運営に反映させるように努めている。例えば、行事实施の際職員を手厚く配置したり、週3回手造りの夕食に切替えて家族の希望提案を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングで職員の意見や提案を聞き、施設運営に反映させている。	毎日入居者の状況と併せて職員の意見をマネージャーが聞き纏めて申し送りノートに記入し、それを職員が交替時に確認している。職員の意見・提案の聞き取りと情報の共有、運営への反映を工夫する余地がある。	職員の運営への参画意識を高め、協力体制をより強固にする為に月1回ミーティングを開く。皆が意見・提案を出し合い、情報の共有を図る。個人面接も全員にされる等職員と管理者との意見交流の機会を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者、リーダーが定期的な会議にて職員の状況、職場環境について報告し、職場環境の改善、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の定期研修にて、個々のスキルアップを図ると共に、外部研修についても奨励し、積極的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会、交流会については、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時にゆっくり話し、要望や不安を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご本人同様、家族様からもゆっくり話し、家族の要望、不安なこと、困っていることを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を聞き、現在必要とするサービスを導入し、今後必要と思われるサービスも支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では、職員一同、利用者と家族のような関係で介護するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の実情を正確に報告するとともに、家族が不安や本人との関係が劣悪にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人が面会に来られた際には、職員一同快く出迎えて、知人や友人が楽しく過ごしていただくよう努めている。	併設のデイサービス利用者の友人・知人が訪ねてきたり、馴染みの喫茶店、神社や公園へ出かける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が参加していただき、個人が孤立しないような、環境づくりを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族とも連絡を取り合い、対処後の支援や相談も受けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や希望をできる限りサービスや支援に取り入れるように、努めている。	毎日の家族的な雰囲気でのケアの中で、本人の希望・意向を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の体調や精神状態等に留意し、申し送りを通じて職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のその日の健康状態等、心身の状態等を勘案し、その日の過ごし方を本人と相談して決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の話聞き、現在必要とするサービスを導入し、今後必要と思われるサービスも支援している。家族の意見を十分に聞き、場合によっては、医師の意見も取り入れ介護計画を作成している。	本人と家族の新たな要望やケアカンファレンスでの職員、看護師、医師の意見等を取り入れて6ヶ月毎に見直し、現状に即した介護計画を作成している。家族には、来訪時又は電話で説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、身体状況、心身の記録を看護師が記録し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意見や希望を聞き、必要な場合は他事業所のサービスも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現利用者の状態では地域資源を十分に活用できておらず、今後検討すべき必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各医療機関とは密接に連携を取っており、定期的に報告、相談をしている。	入所時に本人、家族の希望を聞き要望を取り入れている。通院は基本的には家族が付き添いのもとに行われているが、不可能な時には職員が代行で付き添う事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の利用者の状況を看護師に報告、相談し、必要な場合はすぐに医療機関を受診、訪問受診を受けるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院から退院まで、病院関係者と密に連携を取っており、入院中、退院後の支援をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化、終末期について検討する場合には、家族、本人と十分に話し合い、かかりつけ医とも相談し、支援するよう取り組んでいる。	重度化対応指針を作成して、入所時に事業所が対応し得る最大のケアについて説明し、家族の納得を得ている。終末期にはそのつど対応できる医療体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師、看護師による緊急時、応急手当についての研修等を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、緊急時の避難については概ねできている。避難場所等で、地域と協力できる体制にある。	年2回、消防訓練、地震時の避難訓練が行われている。自治会にお願いして、地域の協力体制が出来つつある。	消防署の協力のもと、夜間を想定しての避難訓練に避難させた利用者の見守りで地域住民が参加・協力してくれるよう依頼して、地域住民の一層の協力体制が出来ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本敬語で対応するよう徹底している。また、プライバシー等については十分に注意して対応している。	本人の気持ちを大切に、敬意を払い、馴れ合いにならないように注意して、さりげないケアが行われている。個人情報には鍵のかかる場所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で自己決定できるよう尊重し、本人の思いを確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調、身体状況を勘案し、毎日の支援を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の衣類等には気をつけ、古くなったり、汚れが目立つようであれば、家族に新しいものを用意していただくよう、お願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在の利用者の状態では食事の準備や片付け等は職員と一緒にできないが、食事だけはできるだけ手作りするよう努めている。	食事は指定の配食業者から昼は弁当が届けられ、夕食は週3回、職員が手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状況を把握した上で、きざみ食、とろみ食等工夫し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に介助しながら、口腔ケアをしており、歯科とも連携を取り、口腔ケア状態によっては、すぐに往診等お願いすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々のパターンを職員が把握し、利用者個々に対応した排泄を支援している。	トイレでの排泄を可能にするべく、チェック表を活用し尿意のない利用者にも時間を見はかり誘導している。紙おむつ、パットも利用者状態を把握したうえでの着用に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々利用者全員の排便を把握し、便秘の方には食品の工夫、また、医師に相談し薬を処方していただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は事業所で決めているが、本人の希望によって随時変更はできるようにしている。	入浴は週2回と決めているが、数名の利用者が施設内の大浴場での入浴を楽しんでいる。全体的に利用者の希望に応えるような支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所での毎日のプログラムはあるが、本人の意思で、休息や睡眠がいつでもできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、看護師が管理しており、用法等理解して、服薬支援をしている。もし、処方内容でわからないことがあれば、医師に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴、嗜好品などを十分に把握した上で、日々のプログラムに組み込むよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節等に合った外出は実施したいが、現状では、利用者の体調等を勘案すれば、非常に難しい。	日常的な外出支援は難しくなっているが、気分転換になるべく、家族と共に食事に出かけたり、天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内に公衆電話を設置しており本人の希望があれば電話をかけたり、手紙を書いたりできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人等が来所したときは、快く出迎えるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開設時より、利用者、家族のご希望や、スタッフの意見などを取り入れ、利用者が快適に過ごしていただけるよう、随時工夫している。	リビングには4畳の畳のコーナーがあり、冬場にはこたつが置かれていたりしている。また季節が感じられる工夫として秋には月見、夏には花火と職員と利用者の手作りの飾り付けがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室や多目的室等があるので、利用者のニーズに合わせた環境をつくるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、使い慣れた物を持ってきていただき利用者が、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッド・エアコンは備え付けられ、スプリンクラーも設置されている。自宅との環境のギャップを感じないように使い慣れた家具やテレビや写真が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーになっており、各室に案内板を掲示しており、できる限り、自立した生活ができる環境づくりを心がけている。		